様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２６２１
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ２１７３１

研究課題名（和文）グローバル化時代における進学・就職・転職ネットワークの社会学的解明

研究課題名（英文）The Structural and Dynamic Effects on Social Networks of the School-to-Work Transition in the Era of Globalization

研究代表者
相澤　真一（Aizawa, Shinichi）

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：００４５６１９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、職業芸術家に焦点を当てた調査研究を行った。専門職のキャリア形成のネットワーク分析としての可能性について2020年度、21年度に発表を行ってきた一方で、文化資本、社会関係資本の概念を統合させる可能性も含めて、2020年に『音楽で生きる方法』を出版し、音楽家という実践家との作業自体がアクションリサーチとも見ることのできるネットワーク研究としても、文化資本、社会関係資本の形成過程とも見ることのできる著作を出版することができた。また、査読付きでの国際学会発表を複数件行い、国際発信可能な学術的水準の高い知見を産み出す萌芽は得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、職業芸術家への多数のインタビューを通じた研究を発表することにより、専門職のキャリアについて、多くの人に知る機会を提供できた点での学術的意義と社会的意義がある。それだけでなく、実際にキャリアとして目指すにあたり、どういう可能性と困難があるか、についての学術的意義だけでなく、そのような専門家を目指す際にどのような発想が必要なのかについて著作に対して非常にポジティブな感想を数多く頂いており、一部はインターネット上でも読むことができる。ここに本研究を実施した社会的意義が端的に現われている。

研究成果の概要（英文）：This research study focused on professional artists. While we have made presentations in FY2020 and FY21 on the possibilities as a network analysis of professional career formation, including the possibility of integrating the concepts of cultural capital and social capital, we published a book in Japanese in 2020, a work that can be seen as action research in itself, working with practitioners, who are also musicians. The work with practicing musicians could be action research, network research, and a process of formation of cultural capital and social capital. In addition, we made several peer-reviewed presentations at international conferences, and obtained the seeds for producing high academic-level findings that can be disseminated internationally.

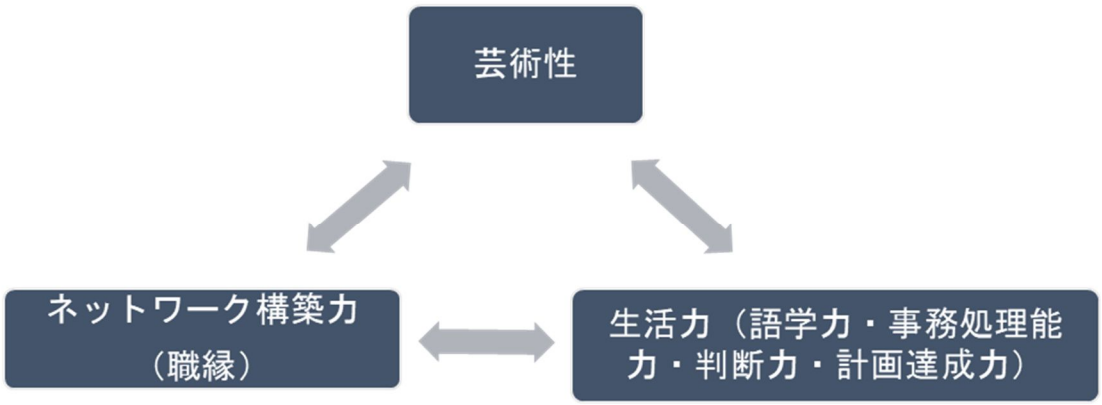
研究分野：社会学

キーワード：職業芸術家　音楽家　美術作家　キャリア　教育　生きること

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究では、芸術の世界のように、専門技能が重要である世界だからこそ、グローバリゼーション時代における地域ネットワークと社会的ネットワークの変容構造を捉えられる先進的な事例になるのではないか、当初、見立てを持っていた。プロジェクト実施前に行ったインタビュー調査を通じて、研究分担者の髙橋かおり（立教大学）が申請前の 2018 年の関東社会学会にて、下記の図の通り提示したように、グローバル社会で芸術家として生き抜くためには、芸術性―ネットワーク構築力―生活力（語学力・事務処理能力・判断力・計画達成力）の三角形のバランス関係あるいは卓越した 1 つの能力から構成されているのではないか、という暫定的結論を得ていた。



そこで、本研究の注目点は、この 3 つの構成要素のなかでも、ネットワーク構築（力）であった。なぜならば、彼らがネットワーク構築を進めようとすればするほど、とりわけ欧州において、地域のネットワークが変化していることが明らかになったからである。インターネットをはじめとする情報環境の変化と現代のグローバリゼーションは、欧州各地で形成されてきた世襲あるいは地域固有のネットワークのなかで成立していた界を急速に変容させている。例えば、北欧の小都市のオーケストラで、それまで代々地元の音楽家一家がやっていたようなオーケストラのポジションに、世界中から応募者が集まるような状況がいくつも生じている。すなわち、芸術家の職業のネットワーク世界が、グローバル化によって、これまで世襲原理が機能していた職業世界から能力主義的なメリトクラシー原理へと急速に展開していることが明らかになってきた。このネットワークのダイナミックな変化への関心が研究開始当初の背景にあった。

２．研究の目的

そこで、本研究では、欧州および日本にローカルに存在する芸術家ネットワーク世界の変容に着目しつつ、芸術家の職業ネットワーク世界のあり方を定量的・定性的に解明すること、そして、グローバル時代の人の動きをネットワーク分析から捉えることを目指してきた。

３．研究の方法

本研究では、定量・定性両面でネットワーク分析のできるデータセットを構築するた

めに、次のような社会調査を展開することを企図した。第 1 に、これまで開拓した調査対象者について、質量両面のネットワーク情報の一層の充実を図るべく、2019 年度、20 年度に年 1 回、ドイツ・フィンランドのインタビュー調査を行うことである。これは、相澤・髙橋によって実施し、以前より研究協力を得ている坂本光太（京都女子大学助教）・輪湖里奈（フリーランス音楽家・東京藝術大学修士課程修了）の協力を仰いできた。加えて、東京を中心に国内でも、これらの対象者の方々が一時帰国した際などにも調査を行う予定であった。第 2 に、この質的に得られたデータを、相澤・髙橋・辻竜平（研究分担者，近畿大学総合科学部教授）の 3 名によって、データ作成の方針を決定したうえで、定量データの作成を行う方向性も視野に入れてきた。

この当初計画に対して、周知のとおり、2020 年より新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響してしまった。そのため、2020 年 1 月までで集中的なインタビュー調査は終了せざるを得なかった。その後、コロナ禍の影響についてのインタビューを 2020 年度以降、さまざまに実施した。小規模なものは 2023 年度以降も特に研究拠点であるドイツの都市においても行った。最終年度まで現地でのインタビュー調査の可能性を模索したことなど複数の理由から、大規模な質問紙調査の実施は見送ったものの、既存データを用いた計量データ分析の論文を本プロジェクトの一環として執筆した。

４．研究成果

結果として、2019 年度に行ったインタビュー調査がプロジェクト全体の中心的なデータとならざるを得なかったものの、ここからの研究成果は少なくない。最大の成果は、2020 年 11 月下旬に『音楽で生きる方法』（青弓社）を出版したことである。本書によって、音楽家が国内外で専門職としてキャリアを展開していくうえでのネットワーク関係についても一定程度の知見を提出することができた。本書を用いて外部スピーカーを招いた研究会も 2022 年度までに 4 回、合評会などに招かれる機会も複数回あり、数々の意見交換を行った。ここで新たにネットワーク研究としても含意のある専門家や芸術家をつなぐネットワークの新しい構築を図ることができ、この点で大きな展開を遂げることができた。

また、オンラインでの学会開催が可能になった時期から、19 年度に収集したインタビュー調査の分析結果を報告する機会があり、国内学会、国際学会で幾度となく報告することができた。『音楽で生きる方法』では取り上げていない美術や演劇を専門とし、国際的に移動する専門職の方々についての分析報告を行ったほか、継続的なインタビュー調査を続けることに拠り、コロナ禍後の職業芸術家のその後の展開について研究を深めることができた。また、そのなかで、初期キャリア、若手キャリアから徐々にミドルキャリアに移行していくなかで、職業芸術家の芸術への向き合い方について、多くの示唆があった。ミドルキャリアでは、初期キャリアにはないライフイベントがさまざまに生じ、そこから芸術とどう向き合うのか、また、それを続けていくにあたり、どういうネットワーク関係が重要になってくるのかについて、考察が及んだ。

また、並行して、既存データの分析によって、日本社会における文化活動についての一定の布置を見出す論文を日本語で出版した。この作業を通じて、本研究で得られた質的なネットワークの分析を量的なデータとの間で接合することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 相澤真一・堀兼大朗	４．巻 110
２．論文標題 日本社会における分析ツールとしての文化資本：『文化・階級・卓越化』を踏まえた計量分析	５．発行年 2022年
３．雑誌名 教育社会学研究	６．最初と最後の頁 115-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 髙橋かおり	４．巻 7
２．論文標題 仕事と遊びを読み替える芸術家の社会的役割――変化に応答する活動軌跡とその語りの分析から	５．発行年 2022年
３．雑誌名 新社会学研究	６．最初と最後の頁 171-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 相澤 真一	４．巻 55
２．論文標題 クラシック音楽祭での鑑賞教育が中学生にもたらす効果の検討――サイトウ・キネン・フェスティバル松本での生徒調査を事例として	５．発行年 2021年
３．雑誌名 上智大学教育学論集	６．最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Kaori Takahashi and Shinichi Aizawa
２．発表標題 Sexy but Poor? The Limitations and the Opportunities in Berlin for Migrant Artists Before and After COVID-19
３．学会等名 ESA RN02 THE SOCIOLOGY OF THE ARTS Midterm conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Shinichi Aizawa, Kentaro Hori, Ken Tanioka
２．発表標題 The Structure of Social Class in Japan: Application of the Great British Class Survey Experiment to a Japanese National Representative Dataset
３．学会等名 British Sociological Association 70th Anniversary virtual conference 2021
４．発表年 2021年

１．発表者名 Shinichi Aizawa, Kentaro Hori
２．発表標題 Social Class Structure in Japan: Measuring Social Class Using Capitals and Assets
３．学会等名 The 2nd Congress of East Asian Sociological Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 相澤真一，堀 兼大朗
２．発表標題 日本社会における生活様式空間と文化資本
３．学会等名 日本社会学会第94回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 相澤真一
２．発表標題 芸術家キャリアへの選択の要因と出自に関する社会学的考察 ――海外在住芸術家の聞き取り調査から――
３．学会等名 第69回関東社会学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kaori Takahashi
２．発表標題 Doing Something Explains Artistic Identity: How Japanese Artists Explain Their Status
３．学会等名 15th Conference of the European Sociological Association (Barcelona/online)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Takahashi, Kaori, and Aizawa, Shinichi
２．発表標題 The network of Berlin-based Japanese visual artists: Their use of languages to form connections to formal institutions
３．学会等名 2020 Sunbelt Virtual Conference（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Tsuji, Ryuhei & Nagamatsu, Namie
２．発表標題 Forty-Years Change of Dimensionality of Occupational Evaluation in Japan
３．学会等名 2020 Sunbelt Virtual Conference
４．発表年 2020年

１．発表者名 Takahashi, Kaori
２．発表標題 Updating cultural migrants: from research on Berlin-based Japanese visual artists
３．学会等名 European Sociological Association, RN-02 Arts 2021 (Virtual)
４．発表年 2021年

１．発表者名 相澤真一
２．発表標題 芸術を学んだ学生たちはいかにして職業芸術家になるのか
３．学会等名 日本社会学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 相澤真一
２．発表標題 日本社会における測定概念としての文化資本の再検討
３．学会等名 関東社会学会第72回大会
４．発表年 2024年

１．発表者名 Aizawa, Shinichi
２．発表標題 Examining the Traditional Rite of Inheriting Traditional Arts within the Social Class Structure in Japan's Regional Cities
３．学会等名 XX ISA World Congress of Sociology
４．発表年 2023年

〔図書〕　計2件

１．著者名 髙橋かおり	４．発行年 2023年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 290
３．書名 永田大輔，松永伸太朗，中村香住編『消費と労働の文化社会学』「やりたいこと」と〈仕事〉の分離・近接・管理――美術作家と音楽家の実践を事例として」pp.103-120	

１．著者名 相澤 真一、高橋 かおり、坂本 光太、輪湖 里奈	４．発行年 2020年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 264
３．書名 音楽で生きる方法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高橋　かおり (Takahashi Kaori) (30733787)	立教大学・社会情報教育研究センター・特定課題研究員 (32686)	
研究分担者	辻　竜平 (Tsuji Ryuhei) (40323563)	近畿大学・総合社会学部・教授 (34419)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	坂本　光太 (Sakamoto Kouta)		
研究協力者	輪湖　里奈 (Wako Rina)		
研究協力者	前嶋　直樹 (Maeijima Naoki)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	堀　兼大朗 (Hori Kentaro)		
研究協力者	谷岡　謙 (Tanioka Ken)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関